

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第226号

2021年2月1日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.wig.jp/>

佐生健光『キリスト教と称名』より (11)

### 詩 篇

詩篇には「主の呼ばわり」が数多くみられる。ここには、作者の主なる神への衷心からの呼ばわりが吐露されていて、我々の心を感動させ、共鳴させる。

神よ、わたしの叫びを聞き

わたしの祈りに耳を傾けてください。

心が挫けるとき

地の果てからあなたを呼びます。

高くそびえる岩山の上に

わたしを導いてください。(詩篇 61・1-3)

「彼はわたしを慕う者だから

彼を災いから逃れさせよう。

わたしの名を知る者だから、彼を高く上げよう。

彼がわたしを呼び求めるとき、彼に答え

苦難の襲うとき、彼と共にいて助け

彼に名誉を与えよう。

生涯、彼を満ち足らせ

わたしの救いを彼に見せよう」(詩篇 91・14-16)

これは、敵、苦難、苦しみ、悪の勢力などの恐怖から救われたいという、人から神への呼びかけであり、それに対する神から人への応答と考えられる。そしてまた、人からの呼びかけに神が耳を傾けられたことを感謝し、与えられた救い、恵への感謝の「呼ばわり」がなされる。

あなたに感謝のいけにえをささげよう

主の御名を呼び

主に満願の捧げ物をささげよう

主の民すべての見守る前で

主の家の庭で、エルサレムのただ中で、

ハレルヤ。(詩篇 116・17-19)

このようなたぐいの詩が詩篇の中では多数を占めるようである。ここで言われ

る救いは、あらゆる意味で苦難からの救い以上のものとは言えないが、少数ながら次に掲げるような例もあることに注目したい。

深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。

主よ、この声を聞き取ってください。

嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら

主よ、誰が耐え得ましょう。

しかし、赦しはあなたのもとにあり

人はあなたを畏れ敬うのです。

わたしは主に望みをおき

わたしの魂は望みをおき

御言葉を待ち望みます

わたしの魂は主を待ち望みます

見張りが朝を待つにもまして

見張りが朝を待つにもまして。

イスラエルよ、主を待ち望め

慈しみは主のもとに

豊かな贖いも主のもとに。

主は、イスラエルをすべての罪から贖ってくださる。(詩篇 130 全)

人はすべて神の前に罪ある者である。すべての罪を贖うものは主以外に誰もいない。その贖い主を、私は戦場で見張りの兵士が夜の明けるのを待ち焦がれるにもまして、待ち望む。これは贖い主を待望する初めの詩である。

詩篇において、留意したいことを次に記しておきたい。一つは、ここにある「呼ばわり」は、何れも個人のそれであり、従来しばしば見られた民族集団としての「呼ばわり」ではない。いま一つは、「呼ばわり」に二通りある、ということである。つまり、「主を呼ぶ」と「主の名を呼ぶ」という二つである。後者は、ダビデ以外の作者に多いと、見受けられる。このことは、いずれ、次項で考えてみたい。

## イザヤ書

イザヤ書以後の書は預言者の言行が主体となる。預言者は、神の意思を人に伝える役目を負う。従って、彼の人々に対する言葉は、神の意志そのものであり、王の言葉より重い。預言書は将来実現すべき事象についても発現するが、それは神の意思や計画をあらかじめ公表することであり、単に未来を予測する予言者との相違点となる。また、そこにも多くの「呼ばわり」が見られるが、それが預言者の呼ばわりであれば、イスラエルの民を代表した神への「呼ばわり」となる。

イザヤ書は、いわゆるメシア預言としての重要性が指摘される。ダビデの父エッサイの裔にメシヤが出現する。そして、末の世に至って、メシヤすなわち救世主によって理想の国が実現するという預言である。またメシヤは、イエス・キリストを示唆するように思われる。その観点に立って、「主への呼ばわり」を考察していきたい。

エッサイの株からひとつの芽が萌えいで、

その根からひとつの若枝が育ち

その上に主の霊がとどまる。

知恵と識別の霊

思慮と勇気の霊

主を知り、畏れ敬う霊

.....

狼は小羊と共に宿り

豹は子山羊と共に伏す。

子牛は若獅子と共に育ち

小さい子供がそれらを導く。

.....

その日が来れば

エッセイの根は

すべての民の旗印として立てられ

国々はそれを求めて集う。

そのとどまる場所は栄光に輝く。(イザヤ書 11・1-10)

.....

その日には、あなたたちは言うであろう

「主に感謝し、御名を呼べ。

諸国の民に御業を示し

気高い御名を告げ知らせよ。

主にほめ歌をうたえ。

主は威厳を示された。

全世界にその御業を示せ。

シオンに住む者よ

叫び声をあげ、喜び歌え。

イスラエルの聖なる方は

あなたたちのただ中にいます大いなる方。」(イザヤ書 12・4-6)

エッサイとはダビデの父の名である。メシヤはダビデの血筋から生まれるということである。始めに、彼の尊い資質について述べ、彼によって理想の王国が出現することを予言する。このことは、神の意志として必ず実現することであるから、主に感謝し、御名を呼び、御名を諸国の民に示し喜び歌え、という。

ここに示された「主への呼ばわり」は感謝のそれであると同時に、約束された救いへの「呼ばわり」でもあろう。

メシヤは、我等の罪の贖い主であり、イエス・キリストを示唆することは、更に第 53 章に示される。長文となるが重要な章句であるから、全文を書き記すことにしよう。

わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。

主は御腕の力を誰に示されたことがあるか。

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように

この人は主の前に育った。

見るべき面影はなく

輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、

多くの痛みを負い、病を知っている。

彼は私たちに顔を隠し

わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

彼が担ったのは私たちの病

彼が負ったのは私たちの痛みであったのに

わたしたちは思っていた

神の手にかかり、打たれたから

彼は苦しんでいるのだ、と。

彼が刺し貫かれたのは

わたしたちの背きのためであり

彼が打ち砕かれたのは

わたしたちの咎のためであった。

彼の受けた懲らしめによって

わたしたちに平和が与えられ

彼の受けた傷によって、私たちはいやされた。

わたしたちは羊の群れ

道を誤り、それぞれの方角に向かっていった。

そのわたしたちの罪をすべて

主は彼に負わせられた

苦役を課せられて、かがみ込み

彼は口を開かなかった。

屠り場に引かれる子羊のように

毛を切る者の前に物を言わない羊のように

彼は口を開かなかった。

捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。

彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか

わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり

命ある者の地から断たれたことを。

彼は不法を働かず

その口に偽りもなかったのに

その墓は神に逆らうものと共にされ

富めるものと共に葬られた。

病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ

彼は自らを償いの献げ物とした。

彼は、子孫が末永く続くのを見る。

主の望まれることは

彼の手によって成し遂げられる。

彼は自らの苦しみの実りを見

それを知って満足する。

わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために

彼らの罪を自ら負った。

それゆえ、私は多くの人を彼の取り分とし

彼は戦利品としておびただしい人を受け入る。

彼は自らをなげうち、死んで

罪人のひとりに数えられたからだ。

多くの人を過ちを担い、

背いた者のために執り成しをしたのは、

この人であった。(イザヤ書 53 章・全)

主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。

呼び求めよ、近くにいますうちに。

神に逆らう者はその道を離れ

悪を行うものはそのたくらみを捨てよ。

主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば

豊かに赦してくださる。(イザヤ書 55・6-7)

あなたが呼べば主は答え

あなたが叫べば

「わたしはここにいる」と言われる。

軛を負わずこと、指をさすこと

呪いの言葉をはくことを

あなたの中から取り去るなら (イザヤ書 58・9)

53 章は、11 章に引き続き、来るべきメシヤの予告とみなされる。ここに示された文章を一読して、我々には、そのメシヤがイエス・キリストのお姿と重なって見えてくるのである。さらに、55 章、58 章は「主を呼び求めよ」という言葉がこれを引き継ぐ。

私にはこれらの言葉が、「主の御名を呼び求めるものはすべて救われる」という、神の約束の予告として聞こえるのである。

そしてまた、イザヤは続ける。

これは、わたしが彼らと結ぶ契約であると

主は言われる。

あなたの上にあるわたしの霊

あなたの口においたわたしの言葉は

あなたの口からも、あなたの子孫の口からも

今も、そしてとこしえに

離れることはない、と主は言われる。(イザヤ書 59・21)

私たちの口におかれた主の言葉、つまり「主の御名を称えるものはすべて救われる」という言葉は、わたしの上にある神の霊とともに、わたしの口からも、わたしの子孫の口からも、いつまでも離れることはない、神はこのことの永遠性を保証されたのである。この言葉の重要性を私は強調したい。